

SENDAI AOBAYAMA PARK MANAGEMENT 5 STEP BOOKS



STEP1
ポテンシャルを知る

竜ノ口エリアフィールドワークの記録

#ハチ

#森林土木

#植物

#クモ

#建築

AREA

竜ノ口

青葉山エリアマップ

神社

竜ノ口沢

ポテンシャル

竜ノ口沢エリアはV字谷が続いていますが、現状では出入りできないエリアです。



元圃場*エリア

ポテンシャル

川沿いの路上生活者は立ち退き対象ではなく、支援・配慮の対象として、対話などによる働きかけが必要。

テニスコート

ポテンシャル

平坦な土地に広がる森林は珍しく、少し工夫をすればバリアフリーな森林体験を提供できる。

キケン!

カミキリムシによる食害。倒木を招く恐れがあるため、適切な管理が求められます。



* 圃場（ほじょう）とは

田んぼや庭木、街路樹などに植える植物を苗から育てて保管するための場所のこと

ポテンシャル

ここには古くから神社があるのですが、地震に伴う崖崩れの影響で近づくことができなくなっています。



仙臺緑彩館

MEMO

エリアの特徴

この地域は、「鳥獣保護区特別保護地区」の指定エリアに隣接しており、野鳥や植物などに身近に親しむことができます。

また、洪水ハザードマップでは、ほぼ全体が浸水を想定する区域となっています。

100 m





2024.1.30 TUE

AREA 竜ノ口

多様な視点でエリア環境のポテンシャルを探り、地域資源を活かした市民参加型プログラムの開発を目的に、専門家5名とともにフィールドワークを行いました。

草・葉が少なく見通しの効く冬は、地形が確認しやすい季節です。

参加した専門家とその視点



ハチの視点で



石塚 武夫さん

養蜂家・丸森町耕野地区

1997年に丸森町に移住し、養蜂農家として営農を始める。仙台の西公園で活動する市民団体と連携し「西公園はちみつ」を製造中。宮城の養蜂の推進や、海外の農村振興にも取り組む。

森林土木の視点で



江刺 拓司さん

森林土木家・石巻市北上町

土砂崩れなど森で起こる災害への対策に行政の立場で携わってきた。今はその経験を生かして各地の環境再生に取り組む。地形も災害も環境も水がつくりだすものと捉え、水の気持ちがわかる技術者を目指す。

植物の視点で



大淵 香菜子さん

植生博士・南三陸町

東京農業大学大学院卒業。森の魅力を多くの人に伝えることを目標として、植物などの森林資源を活用したモノ・コトの商品開発、植生調査、ガイドなどを行い、日々森林の魅力の発信や新たな価値づくりに取り組む。

クモの視点で



納谷 典明さん

蜘蛛博士・仙台市

クモが大好きなネイチャーガイド。日本各地でクモを探す旅をしたり、観察会の講師をしたり、写真撮影を行ったりしている。大量のクモを飼育しており、屋内外を問わず、どこにいてもクモが気になってしまう。

建築の視点で



はねだ まさひろさん

建築起業家・一関市藤沢町

合同会社ビーバーの代表。「丸太からはじまる場づくり」をテーマに、建築企画・デザインから施工までを一貫してこなし、建築的視点での横断的に取り組む。日本各地への遊行を通じて、日夜、修練に励む。

ハチ

の視点でみてみると

BY 石塚 武夫さん

ハチ自体は越冬で飛び回ることはありませんが、ハチと関わりのあることがいっぱい。はちみつのもとになる蜜を蓄えた植物・蜜源植物について教えてもらいました。



オオイヌノフグリ



ヤツデ



イヌツゲ



トチノキ

FIELD
MEMO

ハチが蜜を吸う樹木がいっぱい!?

西公園のはちみつ、実はたくさん採れているんです。なぜ、こんなに採れるのだろと思っていましたが、その理由が今回わかりました。ざっと見ただけでも、15-16種類くらいの蜜源植物が竜ノ口エリアにはたくさん生えていたのです。左の写真の植物は全部ハチが蜜を集める植物です。しかも、トチノキは大木で群生していたので、ここから蜜がかなり採れているに違いありません。

ハチの行動範囲は半径 2Km くらい。もちろんこの青葉山も西公園のハチの行動範囲です。それぞれの範囲で生えている植物の蜜を吸い集めるので、はちみつは週ごとに味が変わります。

森林土木

の視点でみてみると

BY 江刺 拓司さん

森林土木は森をよりよく保つために人が手を加える工事です。コンクリート製の構造物が主流なのですが、最近は木や石を使った伝統的な工法が見直されています。



基本的には平坦な森だが、小さな高低差が所々にある。写真は 1m 程度の段差。雨が降ると水の移動が発生するという。



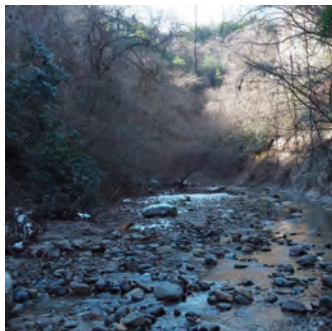
コンクリート三面張りの水路が曲がって終わる。青葉山一帯の水が集まる水路の深さは人の背丈より高い。



竜ノ口沢合流点。撮影した位置と広瀬川の高低差は 3m くらいあり、増水時は対岸の川原が水につかる。



竜ノ口沢の激しい横浸食。樹齢 50 年くらいはありそうなスギの木の根があらわになってしまっている。



竜ノ口渓谷の序章。谷底に樹々が育った溪畔林の様相を見せる。時が止まったような景色が広がる。



竜ノ口沢の石たち。地学的興味も湧くが、小石を使った遊びや創作も面白そう。

FIELD
MEMO

広瀬川への親水性

広瀬川本流は笹藪によって、竜ノ口沢は護岸ブロックによって、コンクリート三面張りの水路は高低差によって、それぞれ公園エリアと隔てられています。水面と高低差があるので、現状では水辺に親しむ機会は全く無いと言えます。

植物

の視点でみてみると

BY 大淵 香菜子さん

普段なにげなく緑のかたまりとして見ている青葉山の植物。まずは大まかな植生と特徴のある種類について教えてもらいました。



モミジバフウ。実の下の葉はトチノキの小葉。



イヌツゲの虫こぶ。(虫えい)



カキドオシ。紫色の花を春に咲かせる。春の葉を乾燥させてハーブティーに活用できる。天ぷらも可。



タラヨウ。裏面に傷をつけると黒くなるので文字が書ける。



アカハナワラビ



園芸種のヤナギバヒイラギナンテン



シロダモ

FIELD MEMO

圃場跡地は自然界にはない植生なので、林床の生育をより詳細に調査していく必要があります。適度に間引いて、少し暗めの森を維持できると良いでしょう。

クモ

の視点でみてみると

BY 納谷 典明さん

身近にたくさんいるクモは、実は広瀬川の伝説に登場してきます。驚くべきクモの世界について教えてもらいました。



ウズキコモリグモ。最もよく見られるクモの1種。体が大きくよく動くので、目に留まりやすい。



サラグモのなかま。おそらくユノハマサラグモ。



クサグモの卵囊（らんのおう：卵がたくさん入った袋）。4月頃から孵化が始まる。



シモフリミジングモ。



ハエトリグモなどの住処。仙臺緑彩館の周囲の白壁にて。あたたかい日に住処から出てきて、周りの昆虫を捕食する。



ジョロウグモの卵囊。卵囊の上から樹皮や苔、葉っぱなどで覆って卵を隠す。うまく隠せていない卵囊は鳥の餌食になる。

FIELD
MEMO

冬の期間はクモもおやすみ

基本的には冬季にクモはあまり出てきませんが、今回は想定以上に複数種のクモが確認できました。ジョロウグモの卵囊やクサグモの卵囊があったように、春先になると孵化がはじまり、クモにとっても活発に行動をはじめめる時期に入ります。卵囊は冬ならではの光景です。

建築の視点でみてみると

BY はねだ まさひろさん

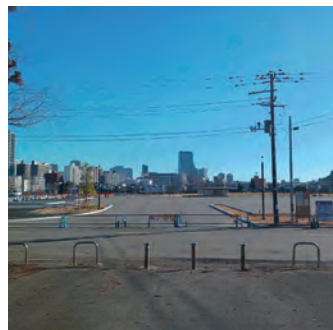
建築は土地柄や土地の雰囲気を読み解き、あたかもそこにもともとあったかのような場所をつくることです。歴史を史実として捉えるだけでなく、深い意味を持たせる方法について教えてもらいました。

見え隠れする場所の遍歴

本丸から下って仙台市博物館の裏を通るクネクネした登城路から、このエリアに入るところで、広瀬川方面への真っ直ぐな軸線を感じました。この場所を縦に抜ける川へのアプローチなどを活かすことができるとおもしろそうです。例えばパークハウスを軸線上に置くといったランドマークをまずつくると良いでしょう。

人の介在がみられる場所

昔は圍場に使われていたということを知り、納得しました。杉が効率的に植えられた林業の林とは異なり、複数種の樹木が生え、景観を意識したような並木があり、そして神社がある。年末に見た、せんだいメディアテークの企画展「自治とバケツと、さいかちの実-エピソードでたぐる追廻住宅-」とも重なり、人の営みが時代を超えて塗り重ねられている所に、このエリアの特徴を感じました。竜ノ口溪谷から仙臺緑彩館までの自然の持つダイナミズムの強弱が、土地が醸し出すエネルギーの流れを生んでいると定義づけられます。さまざまな価値観の人々にとって開かれた場となり、自然と人、人と人が関わりをつくっていくことで、心地の良く人の介在が感じられる場所になるのではないのでしょうか。



登城路-広瀬川一都心
まるで軸線。どこか人の気持ちとつながっている軸線に見える。



ワクワクやなぜ？が発見できる場
視点を変えてフィールドを探索すると、
新たな世界に出会える。

専門家の視点からの アイデア



フィールドワークから見えてきたこのエリアの可能性やこんなことをやったらよさそうというアイデアを専門家の視点から教えてもらいました。

今回、集まった専門家の方々の多様性がとても面白かったですね。こういったいろんな視点を学ぶことができるような青葉山のプログラムがあったら魅力的だと思います。西公園はちみつの採蜜体験やハチの観察会は、西公園を遊ぶプロジェクトと連携して実施できるのではないのでしょうか。

養蜂家 石塚 武夫さん

視点を周囲に向けると、三方を崖に囲まれた場所だということに気づきます。あの「囲まれ感」や歓声が響く「音響効果」は独特のものがあります。長沼からの蛍がいる沢への水路をブロック護岸から親水できる水辺に作り替えることができないのでしょうか。

農林土木家 江刺 拓司さん

青葉山から広瀬川沿いの緑地、竜ノ口沢と、エリア内に環境の多様性と連続性があります。市民参加型の生物調査などを実施、結果をもとに管理計画を考えるワークショップなどができると、参加者のエリアに対する愛着が育まれると思います。

植生博士 大淵 香菜子さん

いろいろなクモがいそうな気配がありました。まだ仙台では見つかっていない種類のクモがいるかもしれません。採集したクモをエタノールに浸して標本瓶を作成する「クモ相調査」のメンバーを募集して、本格的に行うなら毎月開催したいですね。全体的に起伏が少なく小さい子でも歩けるので、親子観察会にも向いています。

蜘蛛博士 納谷 典明さん

隠れ家的な場所なので、音楽家が練習していて、そこにたまたま会えたというような、リラックスしていただける居場所づくりが大切です。主体性を持った団体に一部スペースを貸し出して、小屋や屋台、キッチンカー、ベンチなどの「移動可能な建築ユニット」で場をつくる方法が合うのではないのでしょうか。

建築起業家 はねだ まさひろさん

5STEPとは？

仙台・宮城に住むまちのみんなのチャレンジで公園を育てて、人もまちも育つことを推進する5ステップを、青葉山公園で取り組んでいます。

一度だけでなく、何度もこの5つのステップを繰り返すことで、一人ひとりが自分の庭のように公園を楽しみ・使い・育て、みんなのために行動する市民社会を目指します。

STEP 1

ポテンシャルを知る

STEP 2

アイデアワークショップ

STEP 3

スキルアップ・学び合い

STEP 4

プロジェクト実践

STEP 5

振り返り・フィードバック

青葉山公園
仙臺緑彩館の
HPは
こちらから



2024年5月

青葉山エリアマネジメント

〒980-0863 宮城県仙台市青葉区川内追廻無番 仙臺緑彩館

TEL 022-266-1651

デザイン | 金田ゆりあ